

日経コンピュータ グローバル人材育成プログラム 全6回

ブリッジPM・SE育成実践塾

オフショア開発プロジェクトの成功率を高めるために
ブリッジPM・SEに求められるスキルと手法を身に付ける

2013年2月
開講コース

【開催日程】全6回 / 2013年2月13日(水)、15日(金)、21日(木)、27日(水)、3月1日(金)、5日(火)

【開催時間】9:30~18:00(6回全て)

【会場】日経BP社本社ビル(NBFプラチナタワー)4階 ※会場は変更になる場合がございます。

【主催】日経コンピュータ

開講にあたって

ブリッジSEがオフショア開発成功のカギを握る

システム開発の一部作業をアジアなどのIT企業に委託する「オフショア開発」が始まってから20年。先行する企業は、言語や文化、商習慣などの違いに苦しみ、時には失敗を重ねながらも、成功への方策を探ってきました。次第に日中双方の理解は深まり、中国側のエンジニアたちの技術力や品質に対する考え方は進化を遂げ、オフショア開発を利用したシステム開発手順も確立してきました。ただ、国内ですべての作業をこなす場合と比べるとまだ成功率は高くなく、不要な手戻りなどによってせっかくのコスト削減効果を打ち消してしまうことが少なくありません。遠く離れた拠点を行き来する「ブリッジSE」の個人的なスキルに成否が依存するといった悩みを抱える企業は少なくないでしょう。

今、尖閣諸島をめぐる問題から日中の緊張関係は高まっていますが、それでも日本におけるオフショア開発の発注先は、全体の約8割が中国に集中していると言われる現状を考えると、今後も中国のIT企業は日本にとって重要なオフショア開発の重要なパートナーであり続けると言えるでしょう。日中関係に逆風が吹く今こそ、オフショア開発の開発手順に磨きをかけて、さらなるコスト削減や開発スピード向上といったメリットを出していく必要があります。

そのカギは、ブリッジSEのプロジェクトマネジメント力にかかっています。そこで日経コンピュータは、オフショア開発に必要なスキルや知識、ノウハウを体系的に習得できる研修を用意しました。

研修では、オフショア開発の経験者が講師を担当し、開発成功に向けた様々な実践的な教育を提供します。具体的には、文化や商習慣の違い、距離の制約を乗り越えてコミュニケーションを図る方法、中国のIT技術者に品質管理の重要性を伝える方法、中国側が主体的に日々の品質管理業務をしっかりこなすようにする方法などです。その他にも、実践型のプロジェクトマネジメント技法やケーススタディなども取り入れ、オフショア特有の問題点とその解決策について学んでいきます。大連などオフショア開発現場の最前線で多くのプロジェクトを成功に導いてきた講師陣が、他にはないリアルな実践型教育を実施することで、現場での即戦力に繋がるノウハウを習得することができます。

受講頂きたい方

日本及び中国で活躍するIT業界のプロジェクトマネージャー、システムエンジニア、プログラマーの方々。

- ◆現在、オフショア開発を委託されている会社のPM、SE、PGの方。
- ◆オフショア開発の委託をご検討中の会社のPM、SE、PGの方。
- ◆オフショア開発のプロジェクト責任者、及び、プロジェクトに関係している方。

受講料

6回コース 定員50名

1名申込み ▶ 348,000円(税込)

2013年1月31日(木)までにお申し込みいただくと、上記金額から20,000円引きとなります。

早期申込割引価格 ▶ 328,000円(税込) 2名以上のお申し込みをおすすめします

2名同時申込み ▶ 598,000円(税込) 一人あたり 299,000円

<受講料に含まれる内容>

参考書籍「オフショアプロジェクトマネジメント【SE編】」(幸地 司、霜田 寛之著、技術評論社) / 「オフショアプロジェクトマネジメント【PM編】」(幸地 司、霜田 寛之著、技術評論社) / オリジナルテキスト / 昼食代

※すでに参考書籍を所有されている場合でも社内研修教材としてご活用くださいますようお願い申し上げます。

※3名以上の同時申込は別途お問い合わせください。

お申し込み・お問い合わせ先

日経BP社読者サービスセンター TEL:0120-255-255 (土日祝日を除く 9:00~17:00 携帯電話・PHSからは 03-5696-1111) FAX:03-5696-1139

セミナー係 <http://itpro-store.jp/snc130213/>

ブリッジPM・SE育成実践塾 申込書

下記の必要事項をご記入の上、A4のままでお送りください。 ※FAXでの申込締切：2月7日(木)まで

※2名同時お申し込みの方は、代表者のお名前を記入してください。

フリガナ _____

受講者名 _____

フリガナ _____

会社名 _____

※正式名称をご記入ください。

部署・役職名 _____

〒 _____

住所 _____

会社所在地 _____

TEL. _____ FAX. _____

e-mail: _____

お申し込み人数 1名申込み 348,000円(税込) 2名申込み 598,000円(税込)

お申し込みになる人数を下記に☑してください。 ※2013年1月31日(木)までにお申し込みいただくと早期申込割引価格 328,000円(税込)が適用されます。

恐れいりますが、下欄の業種・部署・役職区分の番号に1つずつ○をお付けください。

0. 製造業-消費財	5. ホテル・レジャーサービス	0. 総務・庶務	5. マーケティング	10. 研究開発	0. 経営幹部	5. 専門職
1. 製造業-生産財	6. 金融・保険業	1. 人事・労務	6. 広報・宣伝	11. 情報システム	1. 監査役	9. その他
2. 卸・小売業	7. 建設・不動産	2. 経理・財務	7. 秘書	12. 国際・貿易	2. 部長・支店長	(個人含む)
3. 輸送業	8. コンピューター・情報処理業	3. 経営企画	8. 物流・輸送	13. 法務	3. 課長・係長	
4. 外食	9. その他	4. 営業・販売	9. 生産・工場	99. その他	4. 一般	

※ご記入いただいた住所やE-mailアドレスなどは、日経BP社からの事務連絡にも使わせていただきます。尚、これ以外に日経BP社および日経BPグループ会社から、各種ご案内(刊行物、展示会、セミナー等)やアンケート、広告主等の製品やサービスのご案内をさせていただきます場合があります。

※「個人情報取得に関するご説明」(<http://www.nikkeibp.co.jp/p8.html>)をお読みいただき、ご同意のうえお申し込みください。

ありがとうございました。

本講座のコンセプト



本講座の構成内容

↑ 応用 実践 エントリー	第6回	ブリッジSE向け顧客折衝ケーススタディ
	第5回	実践! オフショア品質管理技法
	第4回	実践! オフショアプロジェクトマネジメント
	第3回	実践! オフショア開発成功の方程式
	第2回	ブリッジSEに求められるスキルと手法
	第1回	ブリッジSEに求められるスキルと手法

エントリー オフショア開発における基本スキル

オフショア開発で最も課題とされる「言葉や文化の違いによるコミュニケーション不足」について体系的に理解した上で、SE技術である設計・開発・テスト工程でのコミュニケーション技法について例題演習を通して学びます。

実践 オフショア開発を成功に導くポイント

(1) オフショア開発の5つの課題を解決すべくオフショア事業成功の方程式を定義します。さらに、オフショアを成功に導く要因と牽引力の関係について学びます。

(2) オフショア開発プロジェクトを組織横断的な立場から支援するPMOの標準化と持続的改善方法について学びます。

応用 プロマネのためのオフショア開発の実務

(1) オフショア開発の納品チェックをどうすればよい? 手選れにならない転ばぬ先の杖として、統計的手法で品質分析の実践的な技法を探り、品質管理を得意スキルとする人材を目指します。

(2) あるプロジェクト事例を通じて、開発中に発生したトラブルをPMBOKに準拠して分析する。その後、チーム内で討議して、強み弱みから解決策を立案し、戦略を導き、トラブル対策のための顧客折衝を疑似体験します。

ブリッジSEに求められるスキルと手法

～コミュニケーションの壁を乗り越え
オフショア開発のプロになる!～

2月13日(水) 9:30～18:00(開場9:00)

【習得目標】

- オフショア開発のプロになるための必須のスキルと手法を理解する。
- 言葉や文化の壁がプロジェクトに与える影響を理解し、その壁を乗り越える手法を習得する。

1章 言葉と文化の壁を超えるコミュニケーション

1. 文化とは
2. 組織行動と異文化コミュニケーションの基礎
3. 異文化適応によるプロジェクト推進向上

2章 仕様書の作成と伝達、仕様変更

1. 論理思考
2. 仕様書作成
3. 仕様伝達
4. 仕様変更

3章 設計レビューとソフトウェアテスト

1. 品質意識の擦り合わせ
2. 品質の作り込み
3. 設計レビューの実施
4. ソフトウェアテストの監視と受け入れ

4章 開発環境とセキュリティ

1. 開発環境の構築
2. セキュリティリスク対策
3. プロジェクト終結時の処置

個人・グループの演習

- 【1】納期を取るか品質を取るかの判断
- 【2】帰属意識の低いメンバーに対する対応
- 【3】コミュニケーション充実のために活用できるツール
- 【4】未確定事項決定による仕様書差し替えの際の注意事項
- 【5】複数文書間の整合性がとれていないことが引き起こす問題と対策
- 【6】仕様伝達の精度を確認する方法
- 【7】オフショア先のレビュー実施確認方法
- 【8】レビュー品質を向上させるための施策
- 【9】単体テスト仕様書の作成タイミングと精度向上の施策

オフショア開発成功の方程式

～現役PMが語る
オフショア開発に失敗しない勘所とは～

2月15日(金) 9:30～18:00(開場9:00)

【習得目標】

- オフショア開発がおかれている現状、課題を認識し、成功の方程式について理解を深める。
- 伝わる仕様書の書き方、仕様伝達の方法を習得する。

1章 オフショア開発の変遷

1. オフショアに係る用語定義
2. 経済成長を前提とした多重下請け構造
3. コスト削減の2側面

2章 オフショア開発の5つの課題

1. 関係構築
2. 分散環境への適応
3. 多言語コミュニケーション
4. 異文化コミュニケーション
5. ガバナンスの確立

3章 オフショア事業成功の方程式

1. 事業成功の定義
2. 一定規模の継続発注
3. 標準化
4. トップダウン
5. 国際化対応

4章 オフショア事業成功の牽引力

1. 成功要因と牽引力の関係
2. 「総論賛成、各論反対」を押し切る推進力
3. 計測とコントロール
4. グローバルソーシング戦略構築力
5. オフショア開発プロフェッショナルの知識と技法

5章 オフショア開発プロフェッショナルの知識と技法

1. SEに求められる知識と技法
2. PMIに求められる知識と技法

個人・グループの演習

- 【1】伝わる仕様書記載内容考察
- 【2】仕様伝達TV会議のコツ
- 【3】仕様レビュー実施

実践! オフショアプロジェクトマネジメント

～オフショア現場で即実践できるプロマネのノウハウ～

2月21日(木) 9:30～18:00(開場9:00)

【習得目標】

- プロジェクト運営支援の内容を理解し、オフショアプロジェクトの推進力を身につける。
- 開発プロジェクトからオフショアへの切り出し方、オフショア開発プロジェクトの進捗管理方法や立て直し技法を習得する。

1章 プロジェクト運営支援の枠組み

1. プロジェクト計画
2. プロジェクト実行
3. プロジェクト監視コントロール

2章 プロジェクト切り出し

1. プロジェクト視点による切り出し判定
2. プロジェクト工程別の切り出し判定
3. 自社の視点からプロジェクト切り出し判定

3章 見積もり・契約支援

1. 見積り支援
2. 契約支援

4章 リカバリ介入

1. リカバリ介入(プロジェクトの火消し)
2. リカバリ介入手段

5章 プロジェクト監査

1. プロジェクト監査計画
2. 監査実施
3. 監査報告と教訓の蓄積

6章 進捗管理

1. 進捗管理プロセスの計画
2. 進捗実績把握

7章 品質マネジメント支援

1. 品質保証と品質コントロール
2. オフショアプロジェクト固有の監視項目
3. 品質コントロールと監視方法

個人・グループの演習

- 【1】依頼者の立場で見積依頼書作成
- 【2】受託者の立場で週次進捗報告書作成
- 【3】PMOの立場でオフショアプロジェクト運用フロー作成

実践! オフショア品質管理技法

～オフショア先に品質管理の重要性をどう伝え
品質をどう管理するか～

2月27日(水) 9:30～18:00(開場9:00)

【習得目標】

- オフショア開発時の品質問題を正しく把握して対処できるようになる。
- ブリッジPM/SEに要求されるQ(品質管理)、C(採算管理)、D(進捗管理)のあり方と実践的な技法を習得する。

1章 品質上の数値の意味

1. バグ発生件数からの推測
2. 開発規模から見た比較
3. 正規化したバグ検出密度

2章 正しい評価(数値の正規化)

1. 開発上の時系列(工程別)の分析
2. 品質評価の側面(試験の粒度・度合い、正規化)
3. 品質の悪いプログラムのバグ分析
4. 試験密度とバグ密度 5. 可視化(表・図グラフ)

3章 基準値(指標・尺度)

1. 基準値(経験上のノウハウの遺産)
2. 品質水準値 3. 試験密度とバグ密度
4. 工程別の生産性

4章 障害処理票は企業文化

1. 故障処理票の設計 2. ノウハウの結晶
3. 設計項目とレイアウト

5章 PB曲線と傾向

1. PCL消化とBUG発生との相関
2. 品質の傾向を早期に把握
3. PB曲線の意味する傾向とまとめ

6章 ソフトウェア業界の悪癖

1. 設計書は建設業界では青写真
2. 建設業界とソフトウェア業界 3. V字開発の前倒し
4. 高品質ソフトウェア開発の新しい技法

7章 すり抜け防止(T型マトリックス)

1. 試験項目の抽出 2. バグの工程別比率と滞留分析

個人・グループの演習

- 【1】バグ発生件数とプログラム名からの推察
- 【2】実データ数値からの分析
- 【3】正規化した結果での評価
- 【4】サチレーション傾向の予測
- 【5】基準値や尺度からの分析

ブリッジSE向け顧客折衝ケーススタディ

～仕様の齟齬、オフショア先で起きたトラブルなどの対策について、どのように顧客と折衝するか～

【第5回】3月1日(金) 9:30～18:00(開場9:00) 【第6回】3月5日(火) 9:30～18:00(開場9:00)

【習得目標】

- 失敗プロジェクト事例の原因から、強み弱みをPMBOK領域で分析し、戦略を立案できるようになる。
- 会社方針、プロジェクト方針に沿った折衝方針の考え方を理解する。
- オフショア開発における顧客への折衝の考え方、オフショア先で生じたトラブルなどの対策方法を習得する。

ケーススタディテーマ

「ある卸売業の基幹システムの再構築プロジェクトにおける、不十分な要件定義のまま開発したシステムに対する費用回収と、さらに、オフショア先で発生したトラブルの対応」を事例として用いる。

1章 研修の狙いと進め方

1. ケーススタディテーマの事例分析
2. 事例の内容から経緯の整理
3. 開発側と顧客側との落ち度を抽出(PMBOKベース)
4. 発生した問題点に対する要因究明 自社側、顧客側の問題点に対する要因を究明、改善策を考える。(PMBOKベース)
5. 改善策と是正策を立案
6. 顧客へのグループ折衝戦略の立案

2章 顧客への折衝戦略の準備

1. 上司との折衝方針をレビュー
2. 折衝方針に対する振り返り
3. 顧客への折衝内容の構想 レビュー結果を踏まえて、顧客との折衝内容を立案する。

3章 顧客との折衝(疑似体験)

1. 折衝戦略の実際
 - ◆立案した内容で顧客に対し費用交渉を行う。 ◆オフショア先との問題解決。
2. 予想外の局面への対応
3. 顧客信頼度の向上へ向けて

4章 講評(講師解説)

1. 折衝の考え方
2. 顧客との折衝の焦点
3. PPTによるコミュニケーション講演

個人・グループの演習

システム開発プロジェクトにおいて、顧客との間やオフショア先で生じたトラブルについて、PM(プロジェクトマネージャ)の立場から折衝方針立案の考え方や費用折衝を体感する。

- 【1】PMBOK領域で分析してグループ討議で問題点を共有する。
- 【2】事例からの落ち度(強み・弱み)をPMBOK領域で分析して、グループディスカッションを行う。
- 【3】顧客への折衝戦略の立案と上司レビューを行い、戦略を強化する。
- 【4】実際の顧客折衝を疑似体験する。
 - ①立案した戦略で顧客を納得させられるか?
 - ②徹底的に打ち負かされるか?
 - ③オフショア先との問題を解決ができるか?
- 【5】各グループのプレゼンテーションと講師のフィードバックを通じて、ケーススタディ全体の振り返りを行う。



※プログラムの内容は、事情により変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

講師紹介



三宅 雅文氏 大連阿乐迪信息服务有限公司C.E.O.
(みやけ まさふみ)

富士通SE会社に20年勤務後、中国大連市に、システムサービス会社を設立。富士通SE会社に在籍時は、2005年から中国オフショア開発の現場マネージャとして活躍し、多くの自社開発パッケージのコストダウンに貢献する。独立後は、中国(大連)オフショア開発委託の経験から、オフショア開発委託による生産革新のコンサルティング、ソフトハウスやユーザー企業の大連オフショア開発を支援。現在は開発作業よりも、プロジェクトマネジメントに重きを置いた会社経営を実践している。日本オフショアビジネス協会理事。

Masafumi Miyake



杉本 文雄氏 株式会社ワイズ 海外事業本部長
(すぎもと ふみお)

富士通(株)、(株)シーイーシー、(株)NTTデータアイを経て、現職。富士通在職中は、2,000名以上の体制のPMとして、数多くのナショナル巨大プロジェクトを成功に導く。前職では、各社で数多くの企業内研修・教育を担当。一部上場企業、中堅企業向けの研修・教育なども行う。現在は外部企業向け人材教育の研修メニューを開発するほか、北京・大連での中国人SE向けの教育研修も行っている。

Fumio Sugimoto